

常なる磐

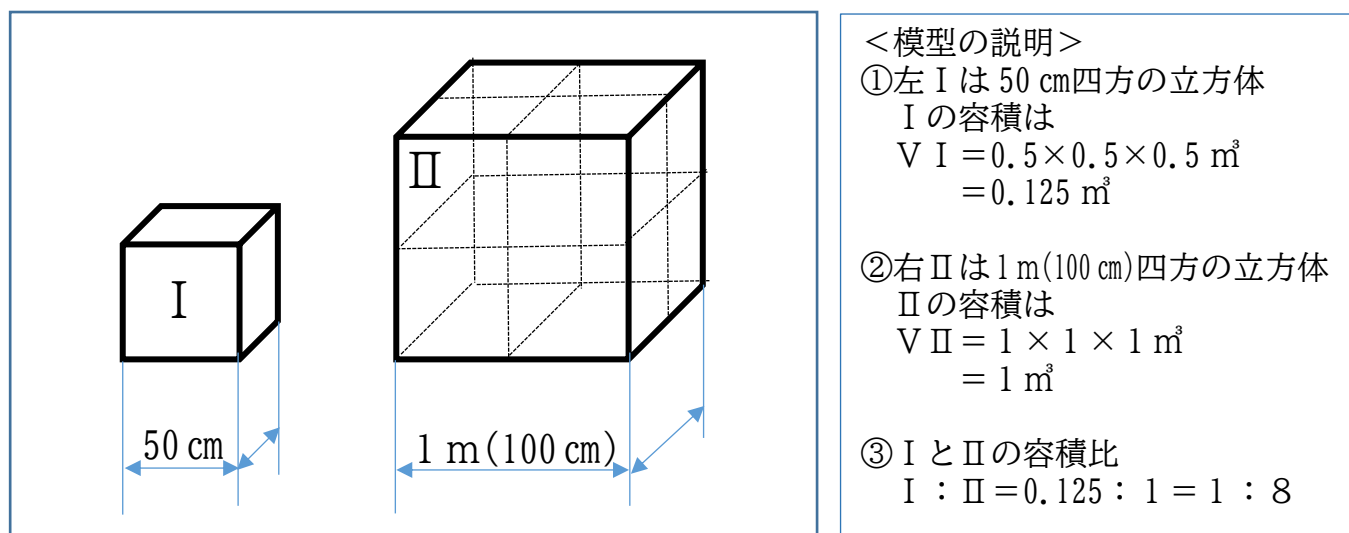
つねなる いわ seasonⅡ

令和3年9月28日(火)

◇ ソーシャルディスタンス を考える

岡崎市では、教育委員会が主催する月1回の「校長会議」がある。さまざまな教育に関する案件に対して詳細を詰め、全小中学校が同一歩調で歩みを進めるために必要な重要会議である。会議案件を受け、校長は各学校の職員会議や打ち合わせ等で詳細を伝えるとともに、対応等についての校長の考えを付して教職員に伝え、学校の運営基盤を固めるのである。

その校長会議の席で、岡崎市教育長の安藤直哉先生が「実物大の2つの模型」を示してお話をされた。模型を図示したのが下図である。



「ソーシャルディスタンスの距離の重要性」を理解するにはもってこいの話なので、紙面を借り、模型の代わりに図解で説明する。

ⅠとⅡの2つの立方体の違いは、一辺の長さの違いである。ⅡはⅠの2倍。ⅠとⅡの一片の長さを1 mと2 mに置き換えてもよい。長さの比は2倍である。

着目点を容積(体積)に変えてみる。

容積Vは「一辺」×「一辺」×「一辺」で計算されることから、<模型の説明>にあるように比率は【 $I : II = 0.125 : 1 = 1 : 8$ 】。つまり8倍となる。

もうお分かりだろう。コロナウイルスは空気中での拡散であり、平面ではない。つまり、人との距離を2倍にすることは、8倍の感染防止策となるのだ。

ソーシャルディスタンスの観点で見れば、人との距離を2倍にすることで、実際には効力が8倍あるということを示された。

KEYポイントは実物大の模型である。

視覚に訴える映像の効果は計り知れない。『百聞は一見に如かず』。実物は、図解とはまた違った効力がある。

さらに教育長先生の話は続く。

『50 cmから1 mに2倍に人との距離を増やすことで、8倍の効果がある。さらに倍にして人との距離を2 mにすれば、さらに8倍。つまり8倍×8倍で64倍の効果がある。』 『このことを、是非子供たちにも伝えてもらいたい。』

次回の朝会（全校集会）は週明けの月曜日。

子供たちの反応を想像しながら、せこせこと実物模型を製作中である。

☆紙面が余ったので、学校周辺で見つけた「面白写真館」をどうぞ☆



【題：常磐東を見守る鏡樹神(かがみこだま)】 ※西門から撮影

おわかりいただけただろうか。アニメ「もののけ姫」の「あの妖精」である。…いや、まてよ。

「千と千尋の神隠し」の
こっちの方☞が似ているか…。



※しかし、これではミラーの
役目を果たさない。
危険を察知し、山田校務員
がお色直しの対応。感謝。

